

現状において、各地のシェアサイクルポートは同一の事業者によるシステムで貸し出し、返却を行うことが基本となります。しかし、都心部の限られたスペースを有効活用し、ポート間の密度を高めることで、利用者の利便性向上を図る取り組みが行われている事例があります。例えば、名古屋市では社会実験として、公共コミュニティサイクルステーションを設置し、市と協定を締結した4事業者（2024年1月時点）が共同で利用する社会実験を実施しています。公共ステーションは、駅近くなどの交通結節点や観光地を中心に設置しており、各協定事業者はそれぞれの利用者にアンケートを実施し、市はその結果や利用状況などについて情報提供を受け、利用者のニーズ等を把握し、コミュニティサイクル事業のあり方を検討しています。様々なポートの設置事例があり、都市再生推進法人による道路上ポート、市営駐輪場の利用率に余裕のある区画を活用したポート等があります。また、カリテコバイクとチャリチャリについては、民間事業者同士の連携事例もあり、市内有数の交通結節点である大曽根駅周辺（イオンモールナゴヤドーム前等）に複数の共同ポートを設置し、回遊性の高い街づくりに貢献しています。



名古屋城正門前



都市再生推進法人による道路上ポート



市営駐輪場を活用したポート



カリテコバイクとチャリチャリの共同ポート